

証券口座の使用方法



チャートの設定方法

チャートの設定

1 テクニカルチャートとは

テクニカルチャートとは、株価や為替などの価格変動や取引量などのデータを視覚的に表示したグラフのことを指します。

縦軸は価格、横軸は期間が表示され、時間軸は分足・日足・週足・月足などの設定があります。

チャートには主に、ラインチャート、バーチャート、ローソク足チャートの3つのタイプがあります。一般的に多く使われているのがローソク足チャートです。

2 テクニカルチャート分析

過去の価格や値動きをグラフ化したチャートを見て、相場や投資家の心理状態を予測・分析し、売買の判断を行うことをテクニカルチャート分析と言います。

価格が安い時に買い、高い時に売ることが、投資で成功するコツですが、価格が高いか安いかを判断する材料の一つとして、チャートによってトレンドを読む方法があります。チャートに基づき、過去の一定期間における株価の動きを分析し、将来のトレンドを予測します。

価格の方向性のことを「トレンド」といい、大きく3つに分けられます。

- チャートが上がったり下がったりしながらも右肩上がりに登っていく**上昇トレンド**
- 逆に右下がりの形になる**下降トレンド**
- チャートが一定幅の間で上がったり下がったりして進む**横ばいトレンド**

トレンドには上記のように方向性によって分類する以外にも、期間によって分類する方法もあります。

一般的に、1年から数年程度を長期トレンド、3週間から3ヶ月を中期トレンド、3週間未満を短期トレンドと分類します。

3 チャートを構成する要素

テクニカルチャートを構成する要素としてローソク足のほか、インジケータがあります。

インジケータとは、チャート上にラインやグラフを表示させて相場のトレンドを視覚化してくれる分析のためのサポートツールです。

インジケータにはさまざまな種類があり、組み合わせることで多角的に相場の動きを把握できるようになり、売買のタイミングを見極める際に役立ちます。

ローソク足

値動きを一目で判別するための記号で、一般的に多く使われているチャートです。

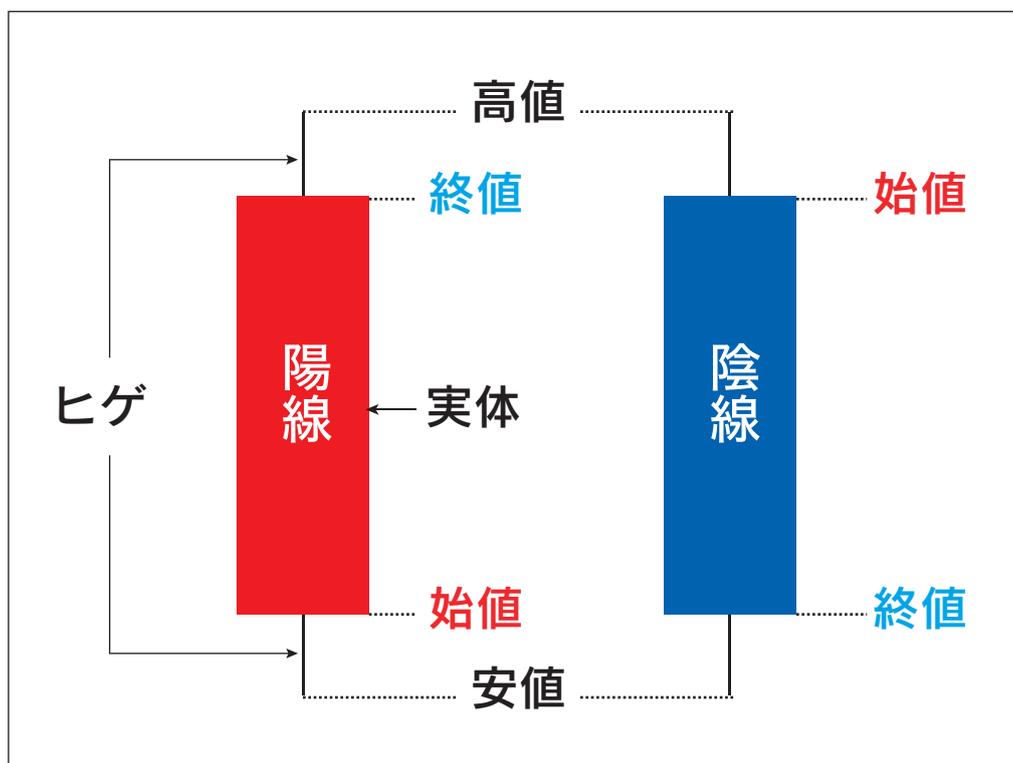
ローソク足は実体とヒゲで構成されています。

一本の足で任意の時間での始値・終値・高値・安値を表しています。

このローソク足が並んだものがチャートとなります。

■ **陽線**…始値より終値が高い

■ **陰線**…始値より終値が低い



ローソク足の陽線、陰線の色は自分で設定できます。
陽線なら白か赤、陰線なら青か黒にするのが一般的ですが、
日本と海外でも違いがあります。



ローソク足から分かること

時間軸

チャートでは、「分」「日」「週」「月」などが時間軸が選べるようになっています。

「5分」を選択すると、5分間の株価の値動きで示されたローソクが表示されます。「日」を選べば「日足（ひあし）」すなわち1日分の値動きが、「月」を選べば「月足（つきあし）」すなわち1カ月分の値動きが表示されます。

ある一日の中では価格が上昇して日足が「陽線」となったとしても、その月の始値より終値の方が安くなれば、月足では「陰線」となります。

このように時間軸を変えて見ることにより「短期的には上昇しているが、中長期的には下落している」といった分析を立てることもできます。

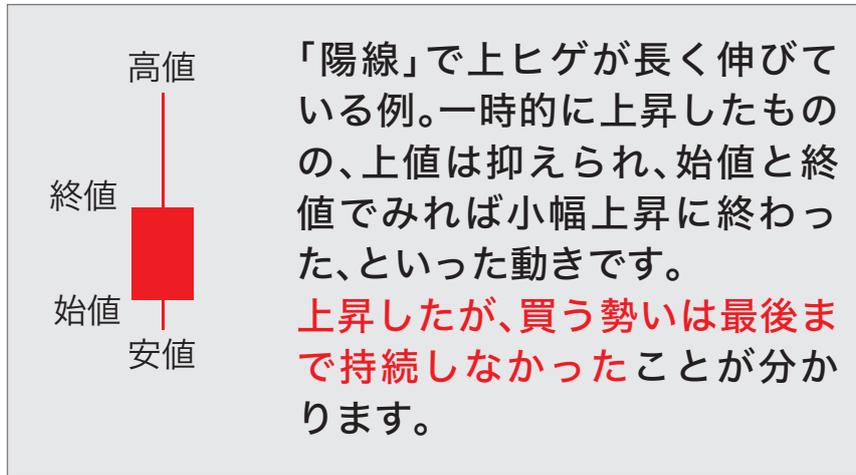
ヒゲの長さ

ヒゲとは、始値と終値を超える値動きを表します。

実体から上に伸びた線を上ヒゲ、実体から下に伸びた線を下ヒゲと呼ばれます。

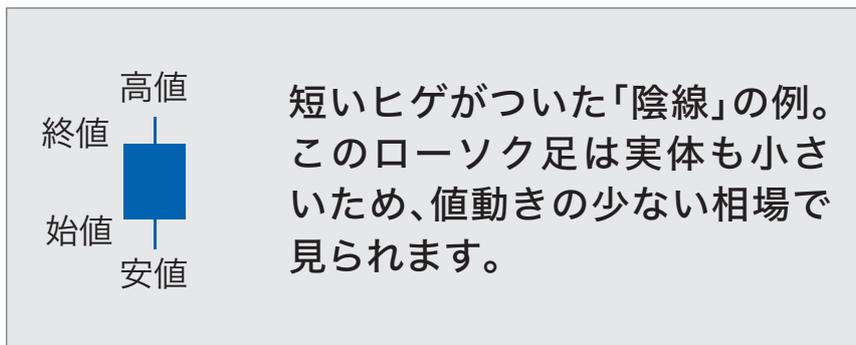
①ヒゲが長い

「始値」あるいは「終値」と、「高値」あるいは「安値」の差が大きかったことを意味します。



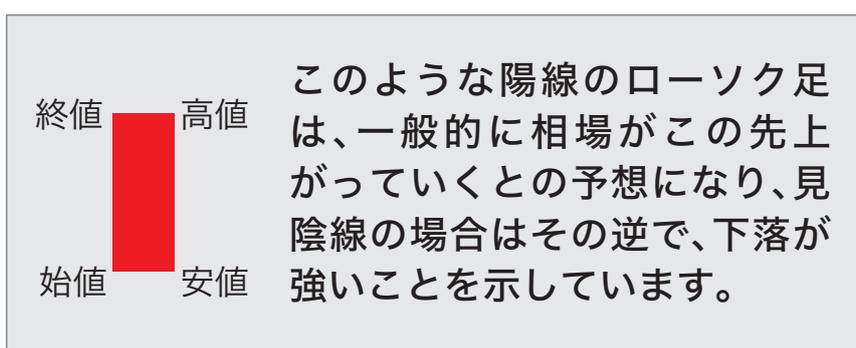
②ヒゲが短い

「始値」あるいは「終値」と、「高値」あるいは「安値」の差が小さかったことを意味します。



③ヒゲがない

陽線であれば「始値＝安値、終値＝高値」、陰線であれば「始値＝高値、終値＝安値」の関係が成り立っていることを意味します。



ローソク足の酒田五法

ローソク足チャートで覚えておきたい5つのカタチです。

三山(さんざん)



相場が下落に転じるときに見られる形で、上昇相場で上げ下げを3回繰り返して3つの山を形成するものです。前の高値を抜けないと相場は下落に転じると予測されます。

三川(さんせん)



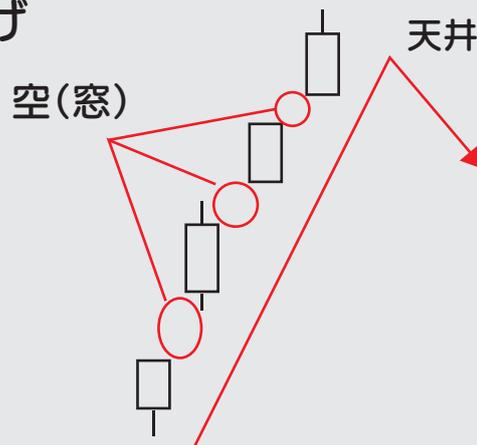
三山と逆のパターン。

相場が上昇に転じるときに見られる形で、下降相場で上げ下げを3回繰り返して3つの山を形成するものです。

三空(さんくう)

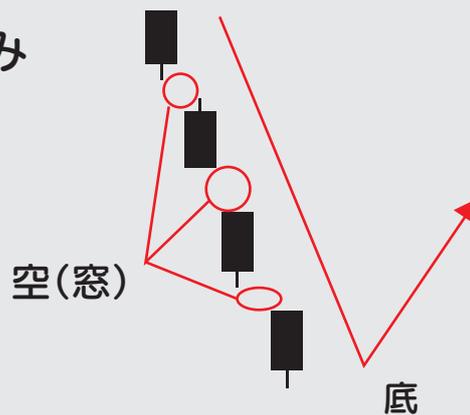
2つの陽線や陰線の間が開いた状態を「窓が開く」「空を切る」といいます。

三空踏み上げ



相場の高値圏で、4本の陽線と3つの上方向の空が連続するパターン。強い買いが続いたので、短期的に急落する可能性が高いだろうと判断されやすくなります。

三空叩き込み



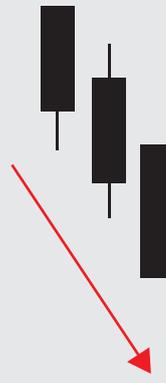
三空踏み上げと逆のパターン。強い売りが続いたので、短期的に下げ止まる可能性が高いと判断され、それまでの急落相場から一転して反発するだろうと予測されます。

三兵(さんぺい)

赤三兵



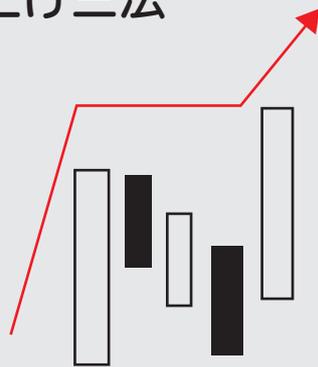
黒三兵



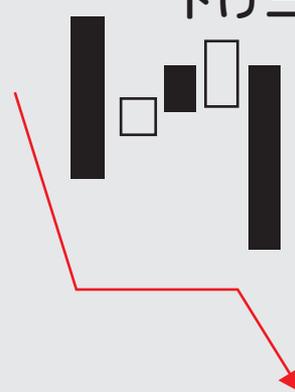
赤三兵は、株価の底値からの上昇トレンド、上昇に向かう準備が整った事を示します。
黒三兵は、逆で下降パターンです。

三法(さんぽう)

上げ三法



下げ三法



上げ三法は、大陽線をつけたあと、調整(3本のローソク足)から再び前回の大陽線を上回る大陽線になった場合を上昇相場へ突入したと予測されます。下げ三法は逆のパターンです。

出来高

出来高とは売買取引が成立した株数(取引量)のことです。ローソク足チャートの下部に棒グラフで表示することができます。

株価は買いたい人が多ければ上がり、売りたい人が多ければ下がるので、「出来高が高い=活発に取引が行われている」状態になったときに、株価が大きく動く可能性があります。出来高と株価の関係として、主に次の3パターンが挙げられます。

- ①出来高が株価に先行するケース
(トレンド発生前に出来高が増える)
- ②出来高と株価が同時進行するケース
(株価が上がるのと同時に出来高が増える)
- ③出来高が株価に遅行するケース
(株価の上昇後に出来高が増える)

株価チャートを見る際は、株価や株価に連動する指標だけでなく、出来高にも注目するようにしましょう。



4

インジケータを設定する

インジケータは、多くの種類があり、目的に合わせて組み合わせ合わせて使います。

たくさん種類がありすぎてどれを入れたらいいのか迷うこともあるかもしれませんが、インジケータには大きく2種類分けて考えることができます。

トレンド系 (相場の流れを読むためのインジケータ)

オシレーター系 (売買ポイントに用いるインジケータ)

相場の流れを読むためのインジケータ (トレンドフォロー)

これらのインジケータは、平均値を出してグラフに表し、相場の流れを示します。相場の動きに合わせた順張りでの取引で使われやすく、主にトレンド相場(一方向に勢いがあり、上昇・下降を続けている相場)で効果を発揮します。平均値なので動きが遅く、売買ポイントの判断に用いるには非常に困難になりますが、利益を伸ばす指標にするには有効です。

相場の大きな流れを確認して、今後のトレンドの方向性を予想する際に活用されるインジケータです。

- **移動平均線**
- **一目均衡表**
- **ボリンジャーバンド**
- **パラボリック**
- **MACD**

売買に用いるインジケータ（逆張りオシレーター）

0%から100%のなかで動きます。

相場の過熱感や強弱をパーセントを用いて表し、買われすぎや売られすぎを判断し、その反転を予測して逆張りのタイミングを図ることに用いられます。

- **ストキャスティクス**
- RCI
- RSI
- ROC
- DMI

このオンライン講座では、「単純移動平均線」・「一目均衡表」・「MACD」・「ストキャスティクス」を表示してチャート分析をしていきます。



「単純移動平均線」・「一目均衡表」・「MACD」・「ストキャスティクス」の設定の仕方、使い方を学んでいきましょう。

単純移動平均線 (Simple Moving Average)

移動平均線(Moving Average Line)とは、一定期間の価格の平均値を計算し、折れ線グラフで表したものです。平均値が折れ線で移動するため、移動平均線と呼ばれています。テクニカル分析の代表的な指標で、株価のトレンドや転換点などを分析するのに利用されます。

よく使われる移動平均線は単純移動平均線(SMA)と呼ばれ、他にも単純移動平均線よりも直近の価格に比重を置いた指数平滑移動平均線(EMA)や加重移動平均線(WMA)があります。

過去の価格の影響を直接受けるため、実際の価格の動きよりも遅くなるため、シグナルの発出にタイムラグが発生するので注意が必要で、売買ポイントではなく方向性を知る指標として用います。

上向きなら「上昇トレンド」、下向きなら「下降トレンド」、横ばいなら方向感のない「もみあい局面」と判断します。

移動平均線の設定期間は、時間足、日足、週足、月足などがあり、期間の長さによって短期目線や中長期目線の分析に用いられます。

単純移動平均線の設定・パラメーター

一定期間の計算根拠となる数値をパラメーターと呼びます。北川流投資術オンライン講座でおすすめパラメーターは「フィボナッチ数列」の**8本、13本、21本、この3本の線を使います。**

全ての時間足（分足、日足、週足、月足）で同じパラメーターで表示します。

フィボナッチ数列とは

フィボナッチ数列とは、イタリアの数学者であるフィボナッチが名付けた数列で、「0、1、1、2、3、5、8、13、21、34、55、89、144、233…」のように、前の数字を足した数が続く法則のことです。

この数列から導き出される黄金比は、一般的に人間の目に美しく映るとされており、自然界のあらゆるところに取り入れられています。

ほとんどの木はフィボナッチ数列によって「枝分かれ」し、人体の「気管支の枝分かれ」や「肝臓の血管の枝分かれ」も同様に分岐しています。

また「花びらの枚数」や「松ぼっくりの鱗模様」、「ひまわりの種の配列」なども同様です。

大衆心理が影響する相場においても意味があると考えられており、フィボナッチ比率を利用したさまざまなテクニカルツールがチャート分析に用いられています。

チャート設定 <単純移動平均線>

①画面上で右クリックします。



②テクニカル (トレンド系) の**単純移動平均線**を左クリックすると表示されます。



③パラメーターを変更するには、画面上で右クリック→チャート設定から単純移動平均線を左クリックします。



④各足のパラメータ、線の種類、線の色、太さを変更できます。

北川流投資術オンライン講座でおすすめパラメータは、8本、13本、21本です。

チャート設定

初期設定に戻す

単純移動平均線

パラメータ	分足	日足	週足	月足
期間1	8	8	8	8
期間2	13	13	13	13
期間3	21	21	21	21
期間4	100	100	78	84
期間5	200	200	100	100

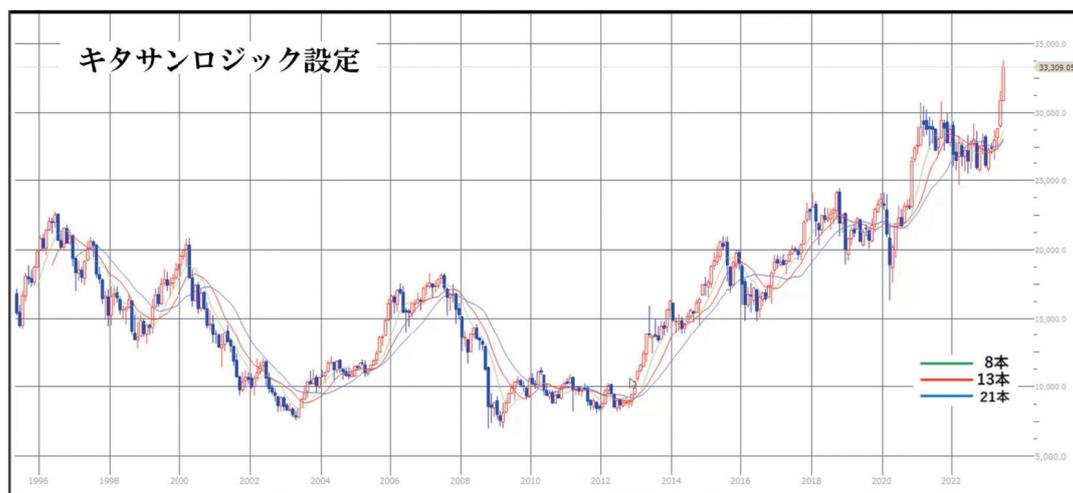
カラー・線種・太さ

<input checked="" type="checkbox"/> MA1	■	実線	1
<input checked="" type="checkbox"/> MA2	■	実線	1
<input checked="" type="checkbox"/> MA3	■	実線	1
<input type="checkbox"/> MA4	■	実線	1
<input type="checkbox"/> MA5	■	実線	1

この設定を全てのチャートに適用する
 OK
キャンセル

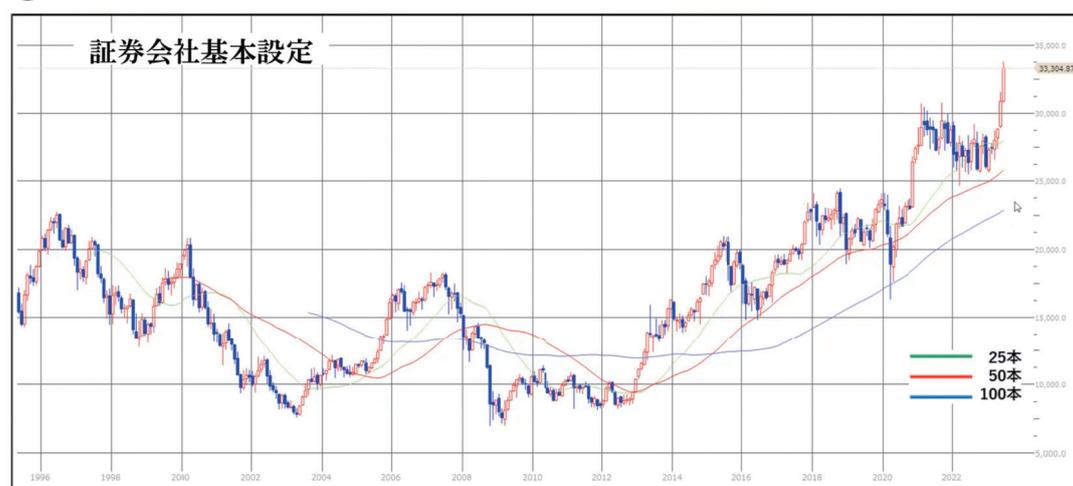
下記は、①フィボナッチ数列設定を用いた移動平均線と
②証券会社の基本設定で多く使われている移動平均線。
②は株価との乖離が大きく、反応が遅いことが分かります。

①



フィボナッチ数列を用いた日経平均月足・単純移動平均線

②



一般的に多く使われる25本、50本、100本の移動平均線

単純移動平均線の使い方

移動平均線は、上向きなら上昇トレンド、下向きなら下落トレンドを表し、またその角度が大きいほどトレンドの勢いが強いことを示します。

他にも下記の動きに着目することでもさらに活用することができます。

トレンド判断

■ ゴールデンクロス

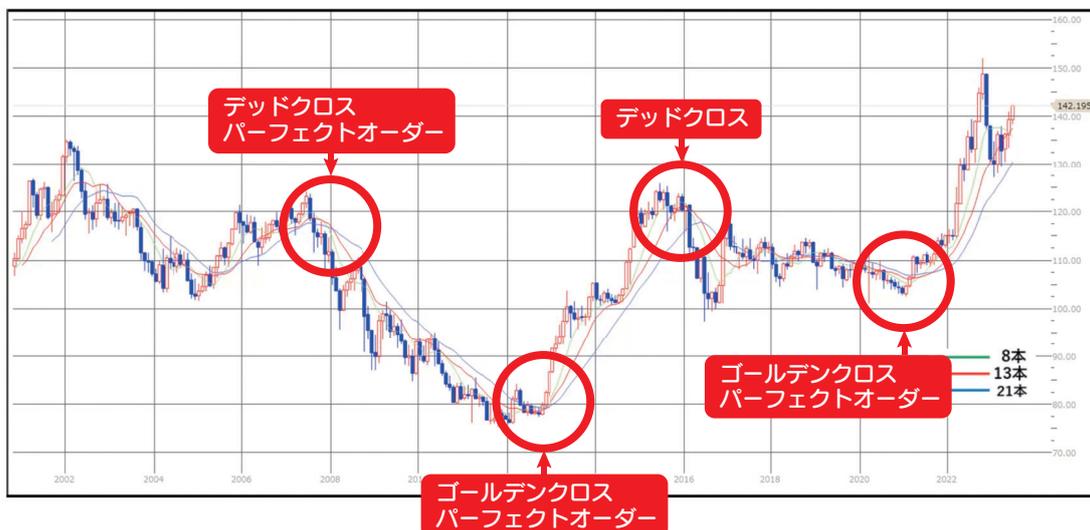
短期移動平均線が長期移動平均線を**下から上へ突き抜ける**ことを**ゴールデンクロス**と呼び、上昇トレンドを暗示するとされます。

■ デッドクロス

短期移動平均線が長期移動平均線を**上から下へ突き抜ける**ことを**デッドクロス**と呼び、相場が下落傾向を暗示するとされます。

■ パーフェクトオーダー

3本の線がいずれも上向きになることを**パーフェクトオーダー**と呼び、強い上昇トレンドを暗示するとされます。



CHECK!

ただしゴールデンクロス、デッドクロスが発生しても、必ずしもパターンどおりに上昇、下落するわけではありません。
あくまでもトレンドの方向を暗示するのであって、売買ポイントではありません。

単純移動平均線の長所・短所

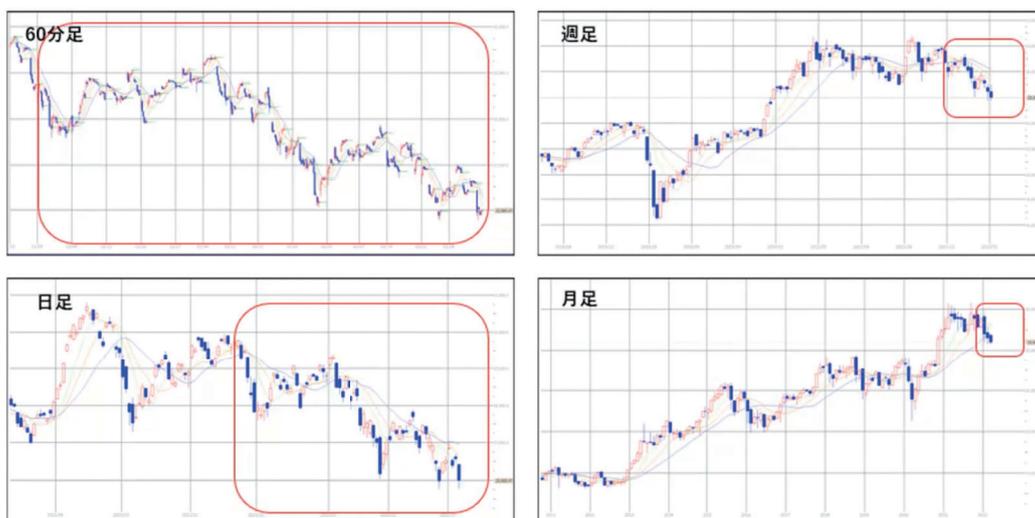
単純移動平均線の長所は、相場の流れが分かり、**MACDと併用することで利益を伸ばすのに有効に使える**ことです。

短所は、保合相場(相場が変動せず、ほぼ横ばいで推移している状態)で**ノイズ(だまし)が入ることがあります**。

また、平均値のため、高値を買い、安値を売ることになり、**売買ポイントを判断するには不向き**です。

単純移動平均線のみで判断するのではなく、他のインジケータ、テクニカルと併用することで、長所を伸ばし、短所をカバーすることが出来ます。

自分のトレードに適したチャートを選ぶ



移動平均線、チャートは時間軸によって見え方が異なります。上記のチャートはいずれも同じ時刻のチャートです。例えば60分足、日足では、下降が続きそろそろ底になるかなと予想を立てることも出来ますが、週足、月足でみると、下降が始まったばかりとも考えられます。ご自分のトレード手法によって見るチャートが変わってきます。

■ デイトレード (時間足で方向を決め、分足で売買する)

1日で終わるトレード。
60分足で上昇トレンド、下降トレンドなど方向を見極め、分足を見て上昇トレンドなら「買い」のみ、下降トレンドなら「売り」のみを行う。

■ スイングトレード (日足で方向を決め、時間足で売買する)

1週間以内で終わるトレード。
日足で上昇トレンド、下降トレンドなど方向を見極め、時間足を見て上昇トレンドなら「買い」のみ、下降トレンドなら「売り」のみを行う。

■ ポジショントレード (週足で方向を決め、日足で売買する)

数週間から数ヶ月、中長期の間ポジションを保有するトレード。
週足で上昇トレンド、下降トレンドなど方向を見極め、日足を見てトレードする。

オンライン講座で勉強する
トレード

■ ロングタームトレード (月足で方向を決め、週足で売買する)

数ヶ月から数年、長期間保有するトレード。
月足で上昇トレンド、下降トレンドなど方向を見極め、週足を見てトレードする。

ご自身のライフスタイルや知識、運用資金に合ったスタイルを探しましょう。

一目均衡表

一目均衡表とは、1936年経済記者の細田悟一氏(一目山人)が考案したトレンド系インジケータです。相場は買方と売方の均衡が崩れたときに動くとの考えから成り立っています。

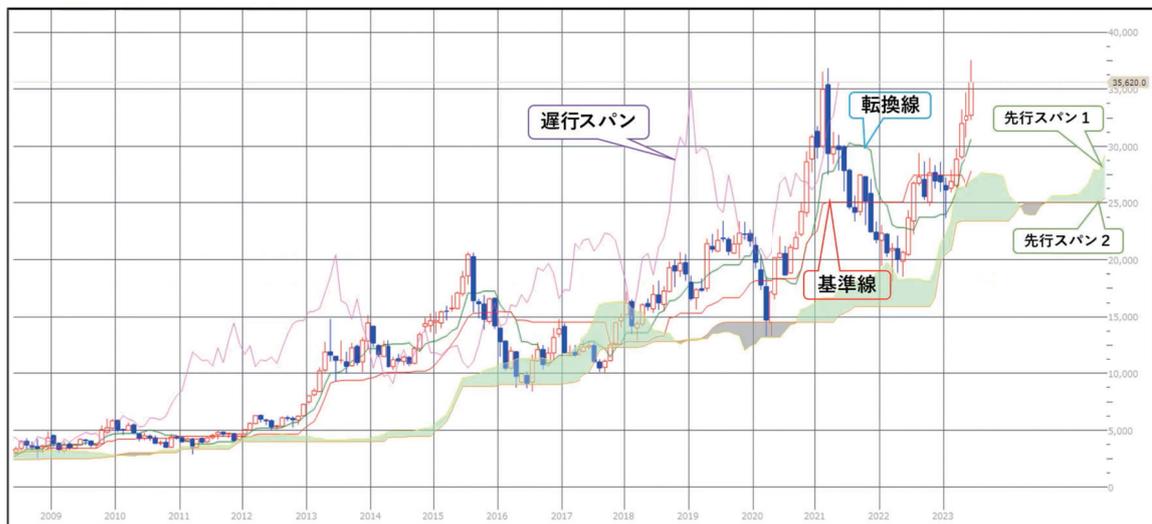
一目均衡表を構成する各要素の動きや相場価格との位置関係を確認することで、トレンドの方向性や市場参加者の心理状況が「一目」で把握できるのが特徴です。

一目均衡表は、以下の5つの要素を表すラインから構成されています。

ワンペアで見る (●**転換線**
●**基準線**)

ワンペアで見る (●**先行スパン1**
●**先行スパン2**) この2本のラインの差を雲と呼ぶ

ワンペアで見る (●**遅行スパン**
(ローソク足))



一目均衡表の設定・パラメーター

■ 転換線

過去9日間の最高値と最安値の平均(÷2)を表す

■ 基準線

過去26日間の最高値と最安値の平均(÷2)を表す

■ 先行スパン1

(転換線+基準線)の平均(÷2)を26日将来を表す

■ 先行スパン2

(過去52日間の最高値+最安値)の平均(÷2)を26日将来を表す

■ 遅行スパン

当日の終値を26日過去に遅らせて表す

一目均衡表の使い方

先行スパン1と2の二つの線に囲まれた部分を「雲」と呼び、下記のような使い方ができます。

売買サイン

■ 雲をサポートやレジスタンスとして利用する

雲を上抜くと買いを暗示、下抜くと売りを暗示。

■ 基準線と転換線のクロスを見る

転換線が基準線を上抜くと買いを暗示。(ゴールデンクロス)

転換線が基準線を下抜くと買いを暗示。(デッドクロス)

■ 遅行スパンとローソク足を見る

遅行スパンがローソク足を上抜くと買いを暗示。

遅行スパンがローソク足を下抜くと売りを暗示。

チャート設定 <一目均衡表>

①画面上で右クリックします。

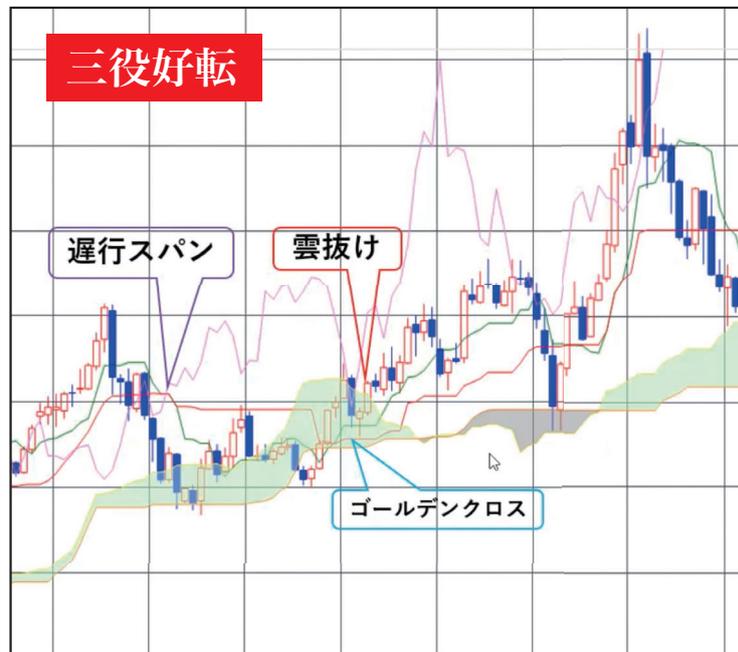


②テクニカル（トレンド系）の**一目均衡表**を左クリックすると表示されます。



三役好転・三役逆転

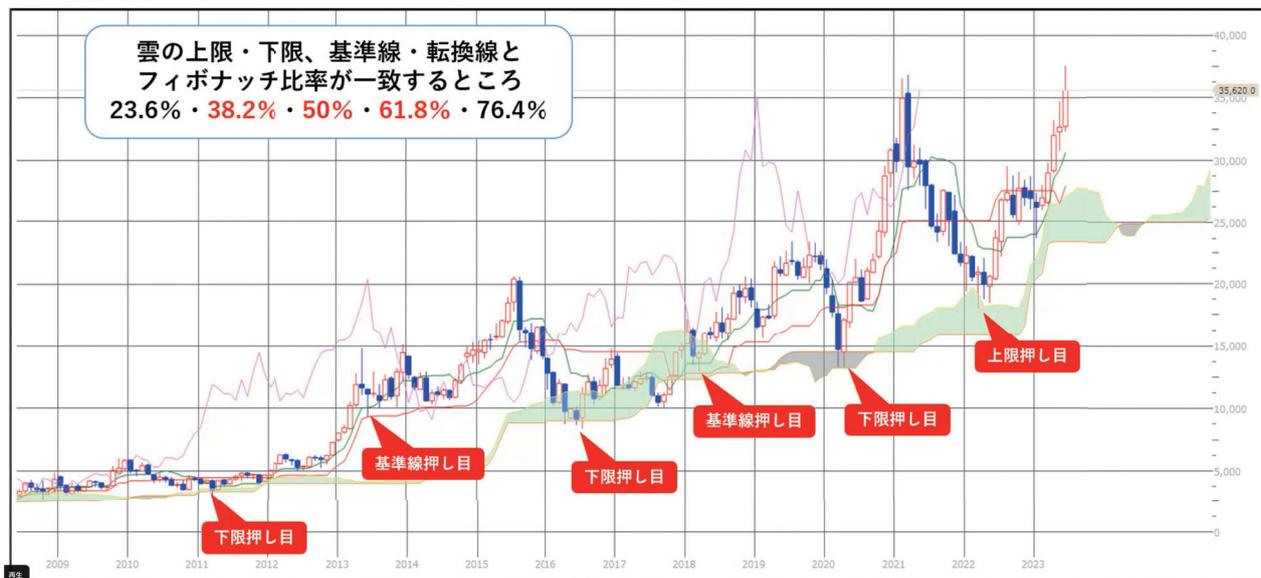
上記の3つの条件が揃うと強い買い、もしくは売りの売買サインが成立します。



調整の押し目・戻りの判断として使う

トレンドが発生している場合、調整としてどこで下げ止まるか(押し目)、どこまで上がった後止まるか(戻り)の判断として、転換線、基準線、先行スパン1・2(雲の上限、下限)が、押し目や戻りとして機能しやすくなります。

* キタサンテクニカルロジックでは、フィボナッチ比率が一致するところに着目します。



上昇に対して、下降(調整)は何パーセントあたりで止まるのかをフィボナッチ比率と一致するところの転換線、基準線、先行スパン1・2(雲の上限、下限)で目処をたてます。

一目均衡表の長所・短所

一目均衡表の長所は、相場の方向性を見極めるのに有効です。また、**上昇相場の調整の押し目、下落相場の戻り場を探すのに有効**です。

短所は、相場の流れを読むインジケータ(トレンドフォローテクニカル)であるため、転換が遅いことです。**単純移動平均線と同じく売買ポイントの判断として使用するには不向き**です。

一目均衡表のみで判断するのではなく、他のインジケータ、テクニカルと併用することで、長所を伸ばし、短所をカバーすることが出来ます。

MACD

1979年、アメリカのジェラルド・アベル氏によって開発された指標の一つで、「Moving Average Convergence Divergence Trading Method」の略で、直訳すると「移動平均線・収束拡散・トレード法」です。通称MACD(マックディ)と呼ばれています。

移動平均線を進化させた精度の高い分析方法で、指数平滑移動平均線 (EMA) を使用します。

トレンドの方向性を確認すると同時に、相場の過熱感(買われすぎ・売られすぎ)を判断することができます。

指数平滑移動平均線(EMA)は単純移動平均線(SMA)より値動きに素早く反応するため、トレンドの初動を予測するのに役立ちます。

MACDは、2本のラインを使い値動きの判断をします。

- ・ **MACDライン**…短期EMA – 長期EMA
- ・ **シグナルライン**…MACDの移動平均線

また、**ヒストグラム**は、MACDラインとシグナルラインの差を表したバー状のグラフです。

MACDがシグナルより上にある時(ゴールデンクロス)はプラスの値を、下にある時(デッドクロス)は、マイナスの値を示します。

どちらもグラフが高くなるほど拡散を意味し、低くなっていくにつれ収束されていることを意味します。

上段：一目均衡表・下段:MACD



(チャートツールによっては、ヒストグラムは表示されません)。

MACD の設定・パラメーター

- MACDライン…短期EMA(12日) - 長期EMA(26日)
- シグナルライン…MACDの移動平均線(9日)

MACDラインは指数平滑移動平均線(EMA)を用いて計算されます。指数平滑移動平均線は、直近の株価が翌日の株価により影響を与えるという考えから、直近の株価に比重を置いて計算されます。

3日間指数平滑移動平均と単純移動平均の計算比較

$$\begin{array}{l} \text{指数平滑移動平均線} \\ \text{(EMA)} \end{array} = \frac{1\text{日目終値}+2\text{日目終値}+3\text{日目終値}+3\text{日目終値}}{3\text{日間}+1}$$

$$\begin{array}{l} \text{単純移動平均線} \\ \text{(SMA)} \end{array} = \frac{1\text{日目終値}+2\text{日目終値}+3\text{日目終値}}{3\text{日間}}$$

チャート設定 <MACD>

①画面上で右クリックします。



②テクニカル（オシレータ系）の **MACD** を左クリックすると表示されます。

③チャート設定から MACD を左クリックし、
短期 12、長期 26、シグナル 9 に設定します。

The screenshot shows the 'チャート設定' (Chart Settings) dialog box for the MACD indicator. The title bar reads 'チャート設定' and '初期設定に戻す' (Reset to Default Settings). The 'パラメータ' (Parameters) section is active, showing settings for four timeframes: '分足' (Intraday), '日足' (Daily), '週足' (Weekly), and '月足' (Monthly). The parameters are: '期間 (短期)' (Short-term period) set to 12, '期間 (長期)' (Long-term period) set to 26, and '期間 (シグナル)' (Signal period) set to 9. The 'カラー・線種・太さ' (Color, Line Style, Thickness) section has checkboxes for 'ヒストグラム (+)' (Histogram +), 'ヒストグラム (-)' (Histogram -), 'MACD', and 'シグナル' (Signal), all of which are checked. The histogram bars are set to purple and blue, and the MACD and signal lines are set to blue and red, respectively, with a thickness of 1. The '透過率' (Transparency) for the histogram bars is set to 0%. At the bottom, there is a checkbox for 'この設定を全てのチャートに適用する' (Apply these settings to all charts), which is currently unchecked, and 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

MACD の使い方

売買サイン

■ ゴールデンクロスで買いを暗示

MACDラインがシグナルラインを下から上へ抜けたポイント

■ デッドクロスで売りを暗示

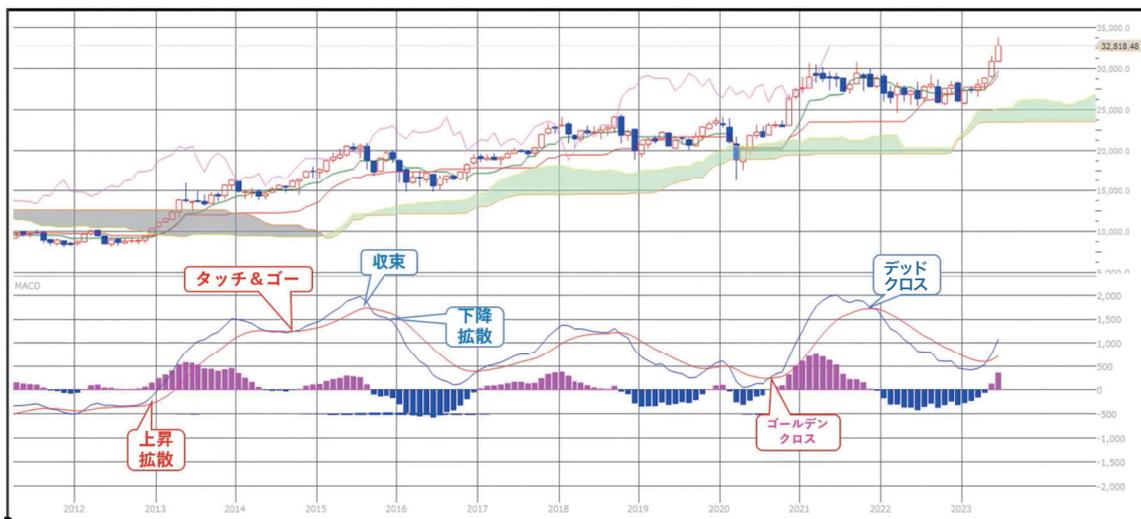
MACDラインがシグナルラインを上から下へ抜けたポイント

トレンド判断・利益を伸ばす

■ ヒストグラムの拡散と収束で早めのトレンド転換を察知

ヒストグラムがマイナス域で棒グラフの表示が小さくなりゼロラインに向かっていけばゴールデンクロスが近いことが示唆され、プラス域で棒グラフの表示が小さくなりゼロラインに向かっていけばデッドクロスが近いことが示唆されます。

早めにトレンド転換を察知することで、**利確ポイントを決める判断につかえるため、利益を伸ばす**ことができます。



MACD の長所・短所

MACDの長所は、トレンドフォローテクニカルの中で最も早く転換のポイントが分かります。

また、トレンドの傾向やトレンドの強弱を、視覚的に判断しやすいため、ストキャスティクスと併用して、買いポイントと売りポイントが一目で分かります。

短所は、トレンドが発生しているときに威力を発揮しますが、値動きが少ないレンジ相場(保合相場)では有効なサインを出しにくい場合があります。

例えば、レンジ相場で、ゴールデンクロスやデッドクロスが発生しても、トレンドが発生しないという「ダマシ」が発生することがあります。

MACDのみで判断するのではなく、逆張りオシレーターと併用することで、「ダマシ」を減らすことができます。

ストキャスティクス

ストキャスティクスは、1950年代に米国のチャート分析家 George Lane(ジョージ・レイン)氏が考案しました。

相場の過熱感を判断するオシレーター系のテクニカル指標で、「買われ過ぎ・売られ過ぎ」を判断するために使用します。

ストキャスティクスは、日本語で「推計統計学」と呼びます。

過去一定期間の最高値と最安値の「統計」から、終値の水準を「推計」という意味を持ちます。

「0~100%」の数値で表されます。

ストキャスティクスには以下の2種類があり、計算式を使って3本のラインを描画します。

- ・ファースト・ストキャスティクス
- ・スロー・ストキャスティクス

■ファースト・ストキャスティクス

%K と %Dの2つの線

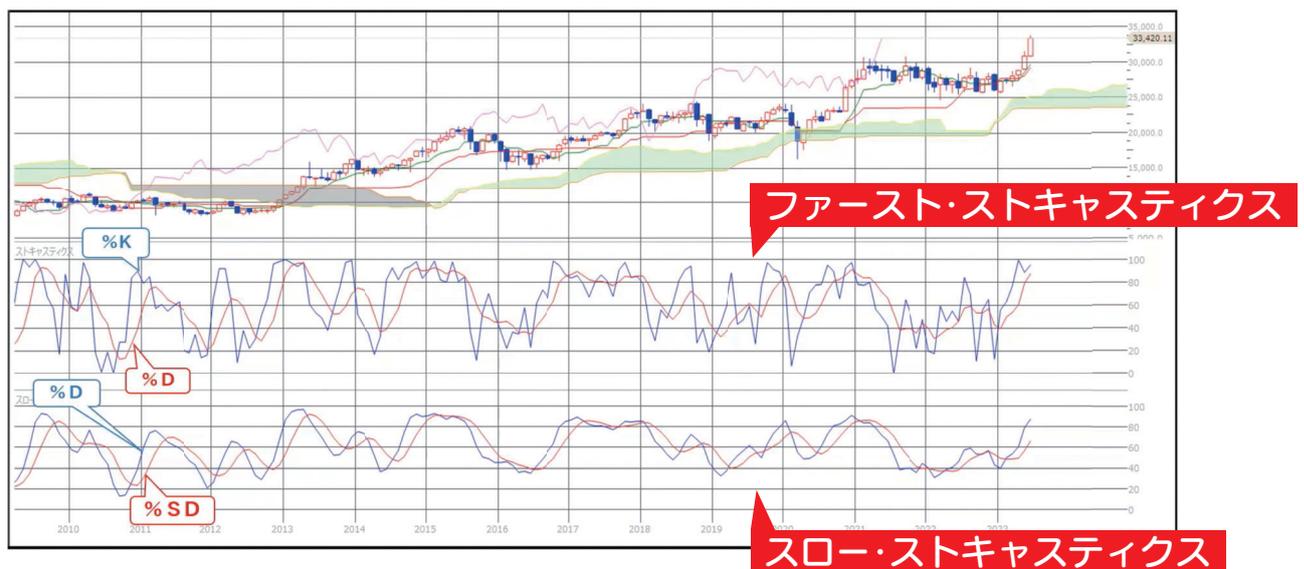
■スロー・ストキャスティクス

%D と %SDの2つの線

ストキャスティクスの設定・パラメーター

- %Kは、直近の終値がどの位置にあるかを見る線
 - %Dは、%Kを移動平均化して滑らかにした線
 - %SDは、%Dの移動平均線(スロー%Dのこと)
 - A は、当日終値-過去5日間の安値
 - B は、過去5日間の高値-過去5日間の安値
- %K=A÷B×100(%)
- %D=Aの5日間移動平均÷Bの5日間移動平均
- %SD=%Dの5日間の移動平均

ファーストストキャスとスローの違い



ファーストストキャスティクスは、線が見にくく、判断が困難なため、この講座では使わない。

スローストキャスティクスを使用します。

チャート設定 <スローストキャスティクス>

①画面上で右クリックします。



②テクニカル（オシレータ系）の**スローストキャスティクス**を左クリックすると表示されます。

③チャート設定からスローストキャスティクスを左クリックし、どちらの期間も **5** に設定します。

The 'チャート設定' (Chart Settings) dialog box is shown. It has a title bar with a close button. Below the title, there's a '初期設定に戻す' (Reset to Default) button. The 'パラメータ' (Parameters) section has a table with columns for '分足' (Intraday), '日足' (Daily), '週足' (Weekly), and '月足' (Monthly). The '期間 (%K)' (Period (%K)) row has '5' selected for all periods. The '期間 (%D・%SD)' (Period (%D・%SD)) row also has '5' selected for all periods. The 'カラー・線種・太さ' (Color, Line Style, Thickness) section has checkboxes for '%D' and '%SD', both checked. For '%D', the color is blue, line style is '実線' (Solid), and thickness is '1'. For '%SD', the color is red, line style is '実線' (Solid), and thickness is '1'. At the bottom, there's a checkbox for 'この設定を全てのチャートに適用する' (Apply these settings to all charts), which is unchecked, and 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

パラメータ	分足	日足	週足	月足
期間 (%K)	5	5	5	5
期間 (%D・%SD)	5	5	5	5

カラー・線種・太さ

項目	色	線種	太さ
%D	青	実線	1
%SD	赤	実線	1

ストキャスティクスの使い方

売買サイン

- **売られ過ぎゾーンでゴールデンクロスが発生すれば買いを暗示**
一般的に20%以下は売られすぎ
- **買われ過ぎゾーンでデッドクロスが発生すれば売りを暗示**
一般的に80%以下は売られすぎ

トレンド判断

- **ダイバージェンス(逆行現象)を探す**

ダイバージェンスとは、価格とインジケータの動きが逆行する現象です。

相場が上昇しているのにストキャスティクスは下落している、または相場が下落しているのにストキャスティクスは上昇しているといった、相場とストキャスティクスの方向性が逆行する現象をダイバージェンスといいます。

ダイバージェンスは、価格の**上昇や下落の勢いが弱くなっており、相場の転換が近いことを暗示し、トレンド転換の前兆**となることがあります。

MACDの拡散・収束と合わせて見ることで、早めのトレンド転換を察知し、ダマシ(ノイズ)を減らすことができます。

ストキャスティクスの長所・短所

ストキャスティクスの長所は、**逆張りオシレーターの中で最も設定の日にちが短期間**なため、**早く転換のポイントが分かります**。

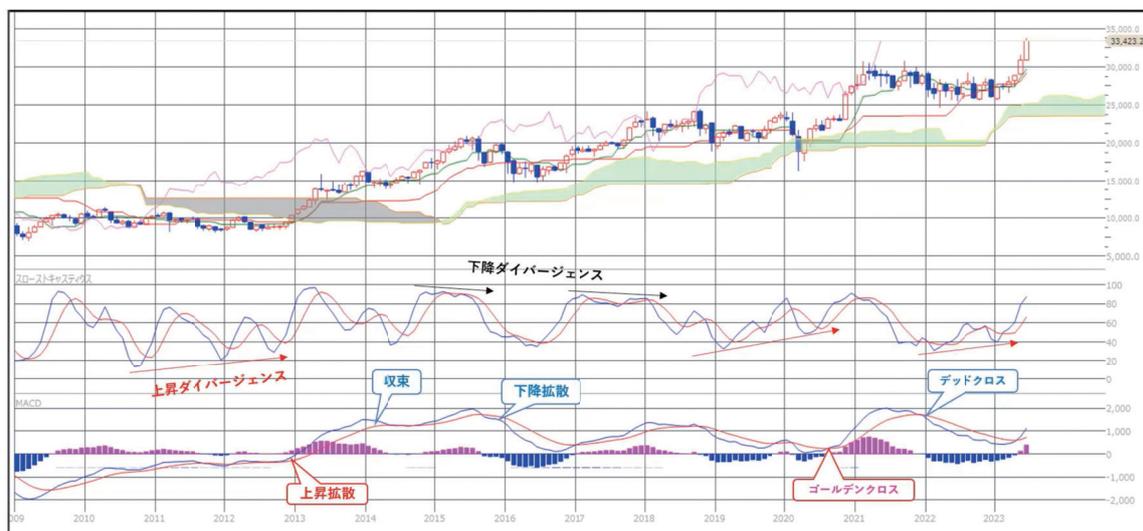
また、トレンドの傾向やトレンドの強弱を、**視覚的に判断しやすいため、買いポイントと売りポイントが一目で分かり**初心者でも迷いが少なくなります。

短所は、レンジ相場において有効である一方、強いトレンドが出ているときは、**極端に高いポイント、低いポイントで張りついてしまい機能しなくなる**場合があります。

そのため、**利益を伸ばす判断には不向き**です。

ストキャスティクスとMACDを組み合わせることでエントリーの精度が高い取引をしやすくなります。

多角的にチャートを見る



縦軸(移動平均線・一目均衡表・ストキャステイクス・MACD)と横軸(時間軸＝日足・週足・月足)を組み合わせることで、トレンドを把握し、売買ポイントを見つけることが大切です。

キタサントレードの心得

- 日足で迷ったら、週足、月足を見て全体を俯瞰する。
- テクニカルは絶対ではない、外部環境や業績等を加味して判断する。
- 迷ったら買うな、悩んだら売れ。
- 投資行動を反省しても後悔するな。
- トレードは続け得ることが肝心。
大きく負けしないで、市場から退場しないことが大切。